

株式会社グリーンバイオマスファクトリー

- ・平成21年に設立されたバイオマス発電の工場。業務内容は農作物から生じた廃棄物を再利用した循環型再生材の開発などの事業を行っている。
- ・宮崎県内の山林未利用材を原料とした木材チップを燃料として発電している。したがって、周辺には木材チップが散らばっていたり、伐採された木材が少し離れた開けた場所に収集されていた。
- ・坂を上ったところにあり、遠くから見てもかなり目立っている印象を受けた。



ソーラーパネル

- ・ソーラーパネルが3箇所それぞれにまとまって設置されていた。この地区で設置されているソーラーパネルは、「コーソクグループ」という会社が都農ソーラーパークとして設置していることが分かった。
- ・屋根にソーラーパネルを設置している個人住宅が多く立地していた。そこから私たちは、都農町の日照時間の長さが深く関係しているのではと考察した。



小さな集落

- ・海面から30mほどの高さの山の中腹に、住宅数が5、6件ほどの小さな集落があり、広大な土地に水田と田畑が広がっていた。
- ・水路や耕された田畑の状態、住宅と山とが共生し合っている風景からのどかさを感じた。



原田鉄筋工業 加工センター周辺道路

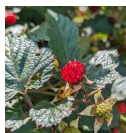
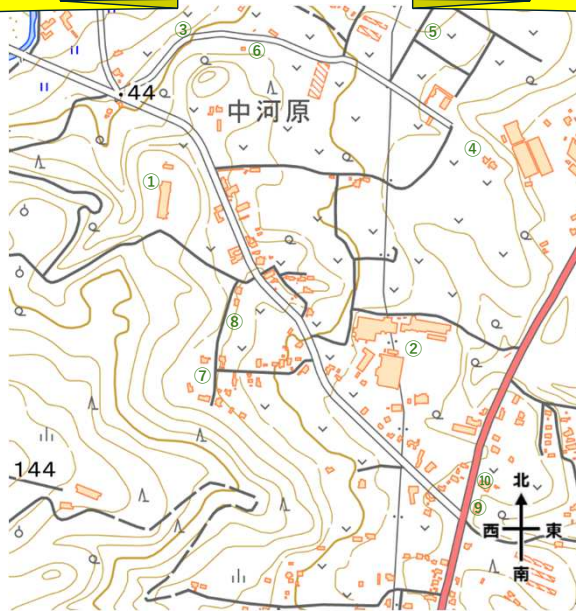
- ・以前までは住宅街があったが台風の影響を大きく受けたため、土地を会社に売却した。
- ・原田鉄筋工業が建設されたことによって、道路の幅が広がりトラックなどの大型車が通行しやすくなった。
- ・この道路はかなり最近に作られたもののため、国土地理院のマップに掲載されておらず足取りを取られてしまった。



お話をした農家のおじいさん

- ・農作業をしていたおじいさんに出会い、質問をしたりお話を聞いたりした。この方は、取材を行った現地の畑でカボチャやネギ、トウモロコシ、サツマイモなどを栽培していた。収穫した作物は道の駅や飲食店などに配送して販売することはせず、ご自身で消費しているそうだ。
- ・雑草などを腐敗させて肥料として活用したり、土地の性質や土壌環境を調べた上でより効果的な農作業に繋げていたりなど、地元の自然環境に対応した農作業を行っているそうだ。
- ・お話の後、畑で栽培されていたビワを親切に分けてくださり、東都農市民の心の温かさを触れることが出来た。

都農町地域資源マップ6班

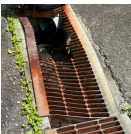


都農町の道ばたで見つけた植物

1. 右の写真：ムラサキカタバミ 2. 真ん中の写真：野イチゴ 3. 左の写真：イチゴ
- 1：南アメリカ原産であるが、江戸時代末期に鑑賞用として導入されて以降、日本に広く帰化している。
- 2：食用の植物でイチゴやイチゴの総称。見た目が似ているため、よく毒のあるヘビイチゴと間違われてしまう。
- 3：バラ科の多年草。花へい部分が食用とされ、家庭菜園などでも作られるほど簡単に栽培が可能な植物である。
- ・これらの植物が様々な場所に植生していた。

不十分な整備

- ・探索途中に発見した錆びたグレーチングが目立っていた。都農町は高齢化も進んでおり危険だと感じた。溝も深く転んだ場合大きなけがが予想され、この道を利用する際には十分な注意が必要になる。
- ・他の道にも道の整備が不十分である箇所が多く、道が凸凹していて歩きづらい場所や、雑草が多く農業用車両での移動が前提とされる場所も見受けられた。



ソーラーパネルと自然と海

- ・石垣付近の丘の上から見えた絶景。自然と工業とが共生しながらも美しい自然が保たれていると感じた。
- ・周辺には坂が多く、他の場所と比べると比較的高い場所に位置していた。そのため、見晴らしが良く東都農町全体が見えつつ、奥には日向灘も一望できる、風通しの良い澄んだ空気がたちこむまでに隠れ絶景スポットであった。
- ・この絶景が見えた付近に、小さな鯉のぼりを駐車場にあげている住宅があったが、非常に静かな雰囲気であった。

都農町にある外食できるお店

- ・左の写真はレストランつ。定食からプレートまであり、ハンバーガーやチキン南蛮などお子様から大人まで楽しめるお店。
- ・私たちはこのお店の近くのGRILL POPEYEという喫茶店で昼食を取った。店内は満員で、料理の量も十分な満足度の高い洋食を堪能した。農地が広がっている場所に位置する中でも設備や内装が非常に綺麗で、利用者に愛されている喫茶店であると感じた。



せいゆう

- ・果物やお酒などが売られている小さな商業施設。周辺にはコンビニやスーパーなどは位置していないため、地域住民の方々がよく利用する場所であるとする。
- ・また、自動販売機が設置してある唯一の場所なので学生さんやお仕事の方でも利用しやすい。



現地の住民の声

Q,東都農の住み心地は？

A,ずっとここに住んでいて、今の平和で穏やかな環境の中で、当たり前で生活しているので生活に不自由を感じることはない。

Q,農作業をしていて大変なことは？

A,カラスやサルがビワを食べたり、シカやイノシシがネギ・サツマイモを掘り起こして食べたりなどの被害を受けている。野生動物が頻繁に現れるため、害獣対策が大変とのこと。

Q,人口減少が続いていますが、東都農町の人口の変化について感じていることは？

A,東都農も人口が減ってきているが、最近では東都農に出稼ぎに来たり、移住したりする外国人がいるので、一概に減っているともいえない。

豆知識：都農には、ビンタがいい＝頭がいい、という方言があると現地の人が話していたが、ビンタという方言は、都農町から生まれたわけではなく、鹿児島県で使われていた方言らしい。また、「2つビンタ」という言葉も同じように使われていて、同時に三つも四つもこのことを処理できるほど頭がいいという意味で使われている。

まとめ

- ・農地が広がっている→土地毎に適した農業を行う
- ・都農町を地名としては知っていたが、実際に都農町を訪れて分かる発見や地域理解が深まった
- ・子供が少ない→公園などの施設や広場が少ないことが原因か
- ・人になかなか会えない→東都農で農作業を行う人はいるがそれ以外の方は地域外へ出勤していると考え
- ・コミュニティバスやタクシーのような公共交通機関が少ない→ライドシェアの運用を強化していく必要がある→ライドシェアが日本では白タク行為になること、第二種免許の取得のない一般の人が運転することで、事故を起こした際の責任転換などの問題点から前向きに政策を導入することが出来ない状況
- ・東都農駅までのアクセスが厳しい→上記と一致
- ・整備が追いついてない場所が目立っていた→本来の自然環境を見ることが可能
- ・商業施設の運用効率の低さ→SNS等での呼び込みで効果を期待